

あわみなと通信

暮らしを支える港湾と空港の話



寅

新年明けましておめでとうございます。

皆様には、幸多き新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は「あわみなと通信」をご愛読いただきまして、誠にありがとうございました。本年も引き続きよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと、国内の出来事としては、何をおいても東京オリンピックでの日本選手の活躍だったのではないのでしょうか。昨年1年の世相を表す漢字も「金」であったように、柔道の金メダルラッシュを皮切りに日本史上最多の27個の金メダルを獲得しました。新型コロナウイルス感染拡大に悩まされた1年でもありましたが、オリンピックでたくさんの元気と感動をもらいました。

次に当事務所の1年を振り返りますと、まずは昭和62年から約34年間お世話になった旧庁舎に別れを告げて、小松島みなと合同庁舎に事務所移転を行いました。みなとに関する仕事を行っている海上保安部、税関、出入国管理局検疫所等と同じ建物に入ったことにより、緊急時の連絡体制等がより強化されたと思っています。

当事務所で行っている事業としましては、徳島小松島港金磯地区及び本港地区の老朽化した岸壁の改良工事を継続して行いました。さらに、新規事業として、南海トラフ地震津波来襲後も港湾物流機能を確保できるよう、沖洲(外)地区及び津田地区の防波堤を改良するための事前調査に着手しました。

また、災害支援として、紀ノ川における送水用の水管橋崩落により断水で困っていた和歌山市民に向け、徳島県内の国土交通省3事務所の備蓄飲料水を海洋環境整備船「みずき」を活用して和歌山下津港まで海上輸送を行いました。

さらに、現時点でも大変な問題になっている海底火山の噴火に由来する軽石が東京湾内への漂流してくるのを阻止し、日本の経済を左右する貿易の中心である東京湾の安定的な海上輸送を維持するために「みずき」が約2週間にわたり横須賀港を基地港として軽石回収作業を行いました。

上記の通り二つの支援を行ったということで、昨年の当事務所の業務の中での金メダル獲得は「みずき」であると思います。

昨年も色々あった1年間でしたが、「みずき」による支援もできましたし、地域のためになる社会基盤整備も進捗できたと思っています。まだまだやらなければいけないことがたくさんありますので、新年を迎え気持ちを新たに、地域のためになる社会基盤整備を事務所一丸となって取り組んでいく所存です。引き続きよろしくお願い致します。

小松島港湾・空港整備事務所長 新見 泰之

◆「みずき」の活躍!!



積込状況(徳島小松島港)



輸送された飲料水

10月3日に発生した和歌山市の大規模断水に対し、10月6日に当事務所が保有する海洋環境整備船「みずき」で、徳島県内3直轄事務所(徳島河川国道事務所、那賀川河川事務所、小松島港湾・空港整備事務所)の備蓄飲料水(約2,440L)を海上輸送しました。

徳島小松島港で飲料水を積み込んで和歌山下津港に向けて出港し、到着後は和歌山港湾事務所と共同でトラックへ積み替え、断水で困る市民へと配布されました。

12月2日から約2週間にわたり、海底火山の噴火に由来する軽石が東京湾内に漂流するのを阻止するため、横須賀港を基地港として海洋環境整備船「みずき」が東京湾内での巡回を実施しました。

巡回中に館山港沖で軽石混じりの浮遊物を発見、回収作業を実施しました。



軽石回収状況



回収した軽石の一部



みなと通信

◆「みずき」一般公開・「ひのみね」体験乗船を開催！

11月3日に海洋環境整備船「みずき」の一般公開と合わせて、港湾業務艇「ひのみね」の体験乗船を徳島小松島港の本港地区で開催しました。この行事は小松島港まつりの協賛行事として25年以上続いていますが、昨年度は新型コロナウイルスの影響で開催出来ず、今回は2年ぶりの開催となりました。

一般公開では「みずき」の船内を巡回して見学し、体験乗船では「ひのみね」に乗船して徳島小松島港の小松島港区を見学していただきました。当日は、222名の方が会場を訪れました。特に体験乗船は、事前予約としていたところ、早々に定員に達する人気ぶりで、37名の方を4便に分けて1便約30分で運航しました。

なお、この模様はテレビ・新聞に取り上げられ、当日夕方のニュース番組では、「みずき」が携わった東日本大震災の復興支援の紹介を交え、来訪者へのインタビューでは「私たちが知らないところで活動していて、助けになっていることがよくわかった」というコメントがありました。当事務所では、今回のような港の魅力を広く皆さまに感じていただける取組みをこれからも続けていきます。



会場（徳島小松島港新港岸壁）



「みずき」の操舵室内の様子



「ひのみね」から港を見学

◆小松島高校の皆さんが徳島小松島港や当事務所の取組みを学習しました

12月15日、小松島高校の皆さんを対象にした出前講座を実施しました。当日は3名の学生に、港湾業務艇「ひのみね」に乗船し、徳島小松島港内に立地する港湾施設や特徴的なスポットを海上見学していただき、その後の座学にて、港町として発展してきた徳島小松島港の歴史や、当事務所が取り組む港湾整備、海洋環境整備について学習していただきました。

特に海洋環境整備事業は、「みずき」の浮遊物回収により船舶の航行安全確保に加え海の環境を守ることに寄与しており、小松島高校が平成11年から横須の松原で取り組む「松原の育樹ボランティア活動」に繋がるものがあったのではないかと感じています。

また今回の出前講座は、小松島高校の生徒もデザインに携わった小松島みなと交流センター 2Fにある「交流スペースkocolo」を利用し実施しました。

当事務所は、こういった出前講座を通じて港の重要性や港湾行政に加え、皆さんが住む地域と港との結びつきをPRして参ります。



港町として発展してきた
徳島小松島港の歴史を紹介しました



初めて近くで見るコンテナ船やガントリー
クレーンのスケールを体感してもらいました



今回の出前講座で使用した「交流スペースkocolo」は、地元の高校生などからの「地元企業の方や社会の方と関わりを持てる場が欲しい!」との声をもとに小松島市が整備したスペースであり、整備前のワークショップで学生等が提案したデザインなどが実際に採用されています。窓の外には小松島の港の風景が広がっており、勉強、仕事、セミナーやワークショップを通じていろんな人が交流できるオープンスペースとなっています。



公式HPも
ご覧ください



学生や
社会人など様々な
方が訪れます

◆ 鳴門市林崎小学校5年生の皆さんが徳島の港について学習しました！

11月24日、鳴門市林崎小学校5年生の皆さんが港の勉強に徳島小松島港を訪れてくれました。

当日は約50名の生徒の皆さんに、東京、北九州に向けて毎日就航しているオーシャン東九フェリー並びに徳島沖で活動する海洋環境整備船「みずき」の船内見学や、港湾業務艇「ひのみね」の体験乗船、座学講座やDVD鑑賞により、『港の大切さ』や『地元徳島の港の特徴』『海の環境を守る意味』を学習していただきました。

ちょうど学校の授業でフェリーを用いた貨物輸送などの物流について学習したばかりの、元気いっぱいの5年生の皆さん、港について学ぶ座学講座やDVD鑑賞では、積極的に発表や質問をしてくださいました。

オーシャン東九フェリーの見学では、フェリーの客室や操縦室の見学など、普段の生活ではなかなかできない体験をしていただきました。また「ひのみね」では海上から港や船を、「みずき」では実際にクレーンを動かして海に浮かぶゴミを回収する様子を、それぞれ見学していただき、真剣にメモを取る皆さんがとても印象的でした。

実際の現場や実物を見たことで、教科書だけではわからない港や船の実際のスケールを、肌で感じていただけたのではないのでしょうか！

出前講座が終わった後、皆さん1人1人がびっしり書いてくださった、素敵な感想文が届きました。

感想文では、「港がないと生活できないことがわかったので勉強して港を守っていきたくと思いました。」「フェリーなどの大きい船を操縦する、人の役に立つ仕事がしたい夢を持ちました。」など他にもたくさん感想をいただき、私たちの出前講座の目的を達成できたと実感しています。今回の港の学習が、生徒の皆さんの成長や、将来の選択肢の一助となれば幸いです。

林崎小学校5年生の皆さん、今回は、社会科学習の場として私たち小松島港湾・空港整備事務所ならびにオーシャントランス株式会社による出前講座を選んでいただき、ありがとうございました。またぜひ“みなと学習”に来てくださいね！



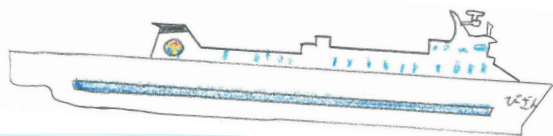
心のこもった
暖かい感想をたくさん
いただきました！



船員の皆さんにフェリーの中を案内して
いただきました。大きなスケールにビックリ！



元気
いっぱい
質問！



海のごみ
回収の実演！
たくさんメモを
取りました。



大きな
貨物船にビックリ！
色々な船やそれぞれの
役割を学習しました！

フェリー
びざんをバックに
記念撮影！



「撫養港海岸直轄海岸保全施設整備事業」の事後評価を行いました

9月29日、「第1回 四国地方整備局事業評価監視委員会」が開催され、徳島県鳴門市に位置する撫養港で当事務所が平成18年から平成28年にかけて実施した「撫養港海岸直轄海岸保全施設整備事業」を、委員の皆さまに審議いただきました。

本事業は、今後30年以内に70～80%程度の確率で発生が予測される南海トラフを震源域とする地震及びその後襲撃する津波に備え、海岸堤防の液状化対策や嵩上げ、津波時に浮力で自動閉鎖する「フラップゲート式陸閘」の整備などの地震・津波対策を実施したもので、本委員会では事業完了から5年が経過したことによる事業効果の発現等について審議されました。

本事業実施により、鳴門市中心部の津波浸水被害を軽減するという事業効果に加え、安心感が増したことなどにより、地元企業の新たな設備投資、背後地域による賑わい創出、地域の防災意識の啓発など、環境変化を確認することができ、本委員会において「事業の効果は十分に発現している」との評価をいただきました。

当事務所では今後も、地域経済の発展、皆さんの生活の安全安心確保を目指し、計画的な社会基盤整備を行って参ります。



事業実施箇所ならびに防護区域(橙色の範囲)

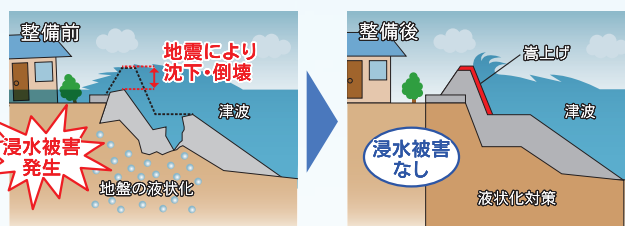


写真:鳴門市提供

事業完了後の堤防付近での賑わい



全国の港湾海岸で初めて採用されたフラップゲート式陸閘



地震津波対策イメージ

南海トラフ地震などの地震災害を想定した合同訓練を実施しました

12月8日に防災エキスパート(港湾・空港)と合同で南海トラフ地震などの地震災害を想定した合同訓練を実施しました。

今回の訓練では、GNSS(衛星測位システム)を用いた岸壁被災状況の現地測量調査の実施訓練を行い、機器の取り扱い方法の確認や報告資料の作成など、実際に行われる手順について再確認したことで、職員の技術向上に繋がる有意義な訓練となりました。



岸壁被災調査



GNSS測量状況



報告書作成

おしえてコマほん

防災エキスパート(港湾・空港)とは??



災害発生時に港湾・空港施設などの災害復旧活動を迅速に実施出来るように、災害支援活動などを行う、専門知識を有した熟練技術者ボランティアのこと。

出前講座の申し込み受付中!

当事務所では、海と空の「みなと」のこと、また当事務所の仕事について、広く皆さんに知っていただくために、出前講座(みなと学習、環境学習、防災学習)を開講しています。

楽しく学べる当事務所の出前講座、現場見学会のご依頼を受け付けています。



出前講座、現場見学のお問い合わせは・・・

当事務所 TEL (0885)-32-3855

または ホームページ「暮らしを支える港湾と空港の話」
<http://www.pa.skr.mlit.go.jp/komatsushima/>
よりお問い合わせください。



事務所ホームページQRコード